

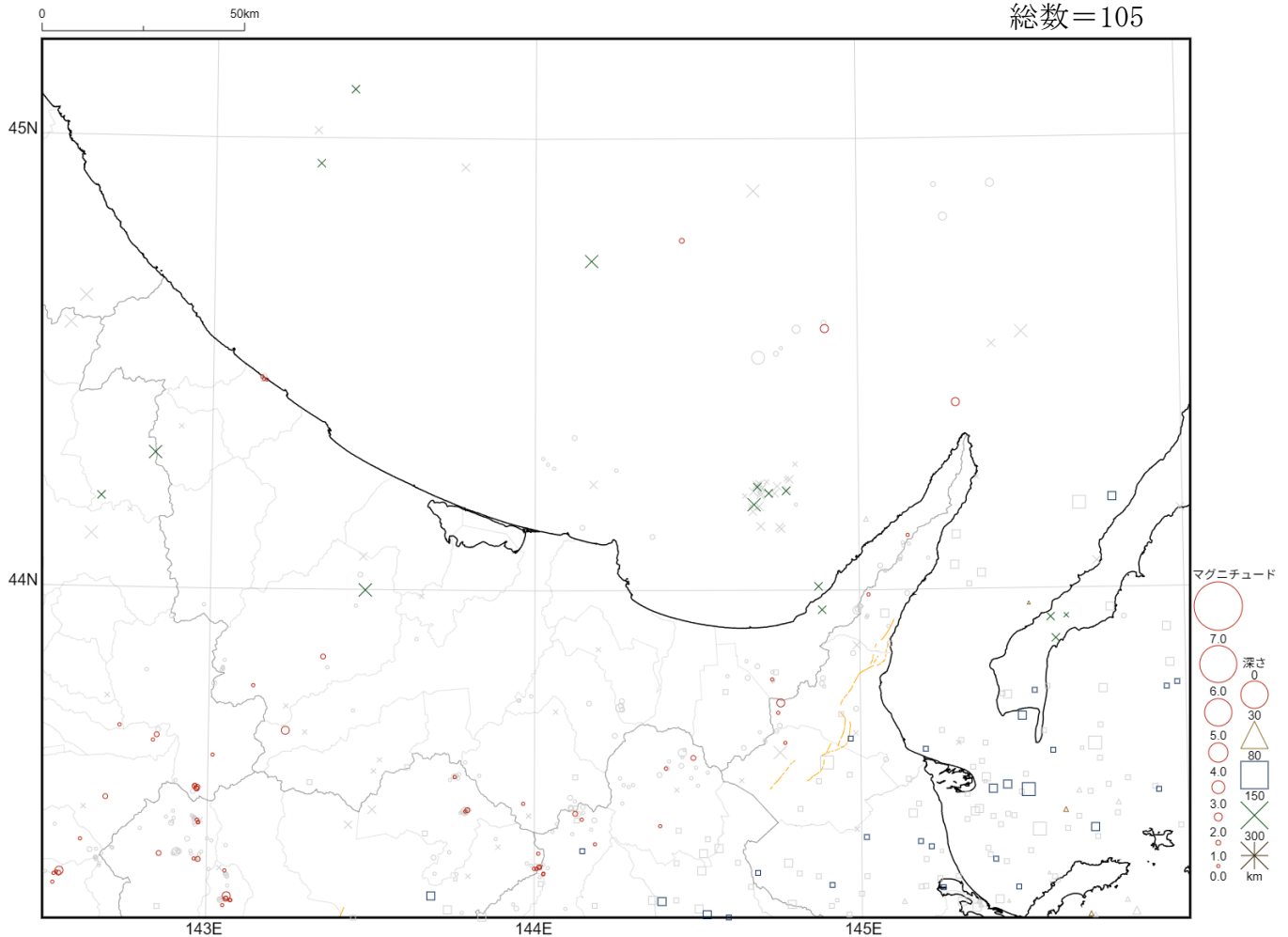
網走・北見・紋別地方の地震活動図

2025年10月

網走地方気象台

震央分布図

総数=105



- ・ 図中橙色の線は、地震調査研究推進本部が地震発生可能性の長期的な確率評価を行った主要活断層を表します。
- ・ 過去の地震と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。
- ・ 本資料中の地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号平29情使、第798号）。

地震概況（2025年10月）

この期間、網走・北見・紋別地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震は2回（9月はなし）でした（「網走・北見・紋別地方で震度1以上を観測した地震の表」参照）。

22日18時17分、釧路沖の地震（M5.1、深さ43km、震央分布図の範囲外）により、斜里町、清里町で震度1を観測しました。

25日01時40分、根室半島南東沖の地震（M5.8、深さ40km、震央分布図の範囲外）により、網走市、斜里町、清里町、小清水町、大空町で震度2、美幌町、北見市、置戸町、湧別町、興部町で震度1を観測しました。

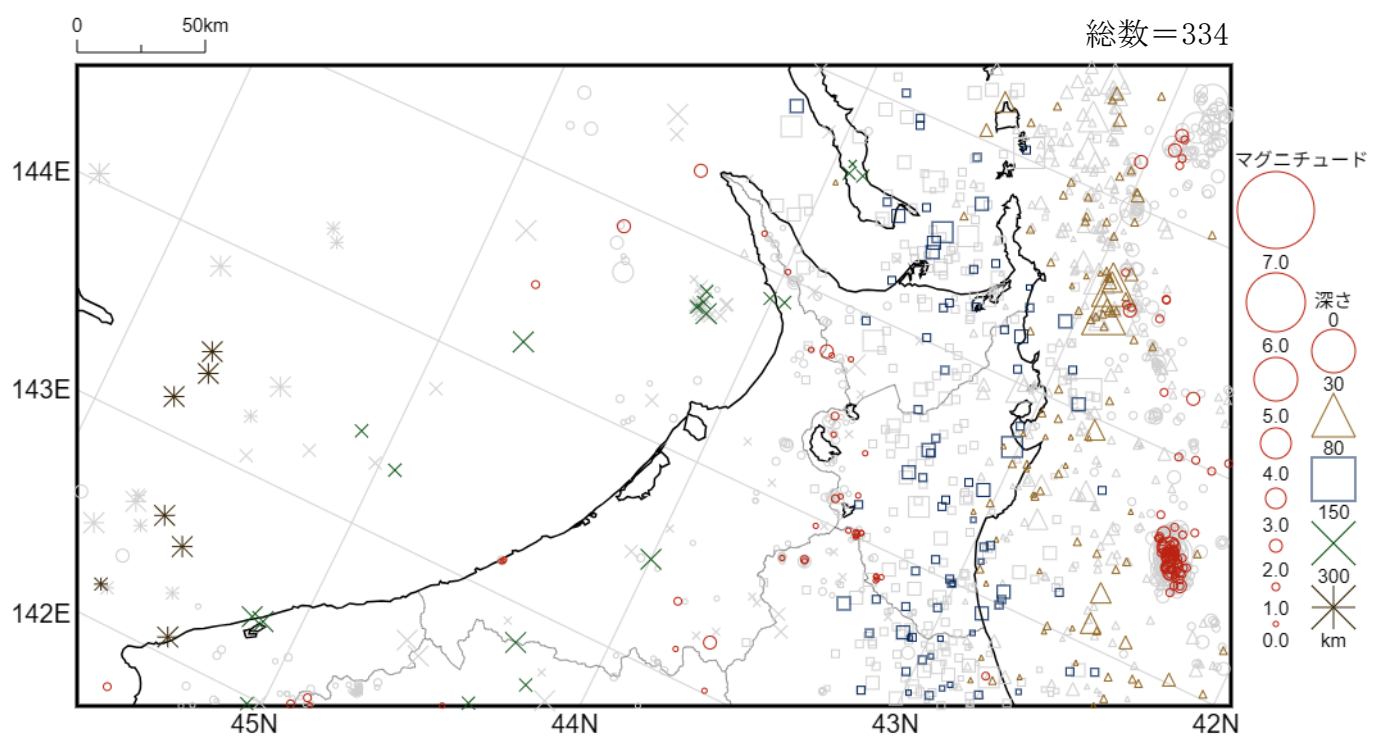
この活動図は、網走地方気象台のホームページに掲載しています。

<https://www.data.jma.go.jp/abashiri/>

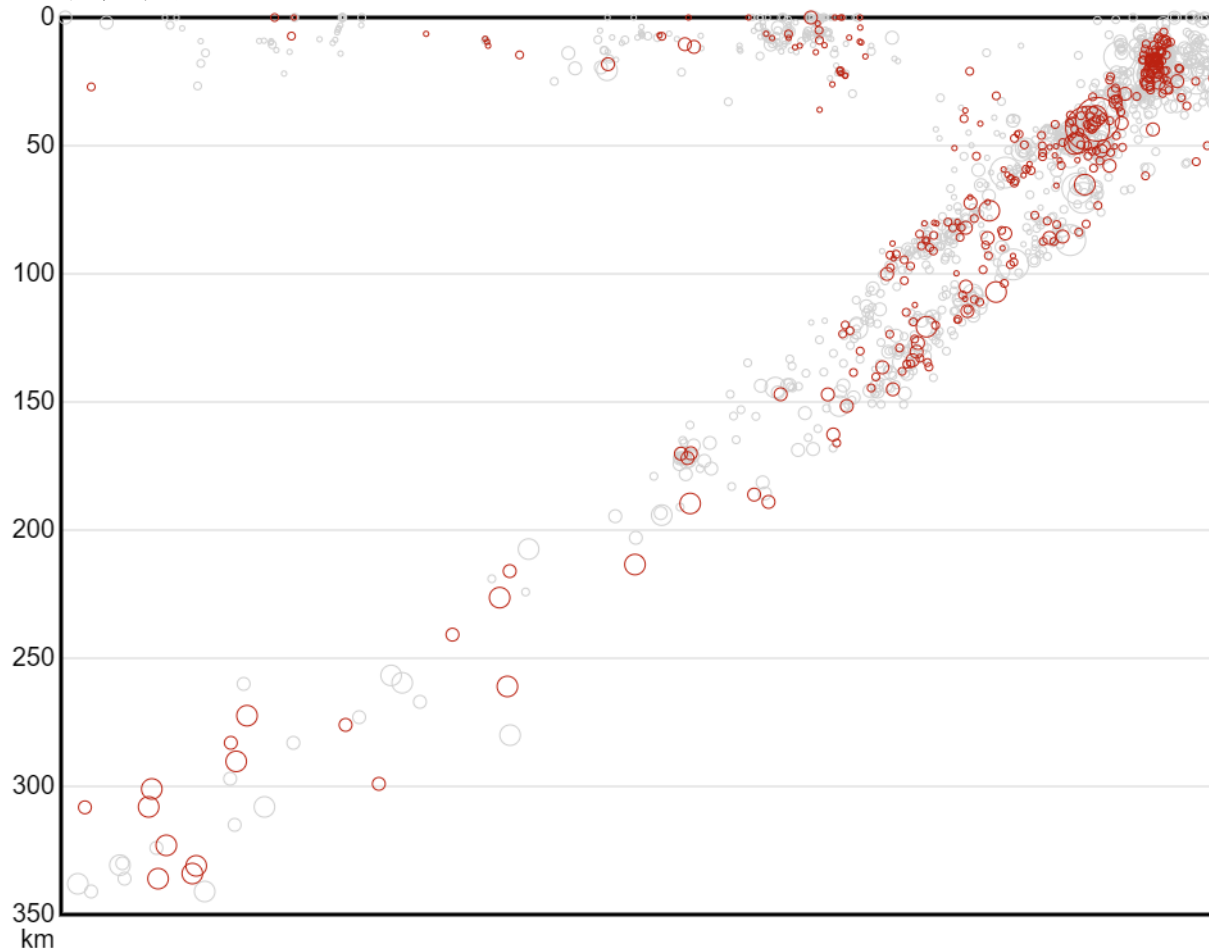
この資料に関する問い合わせ先 網走地方気象台 TEL 0152-43-4349

2025年10月

震央分布図



断面図

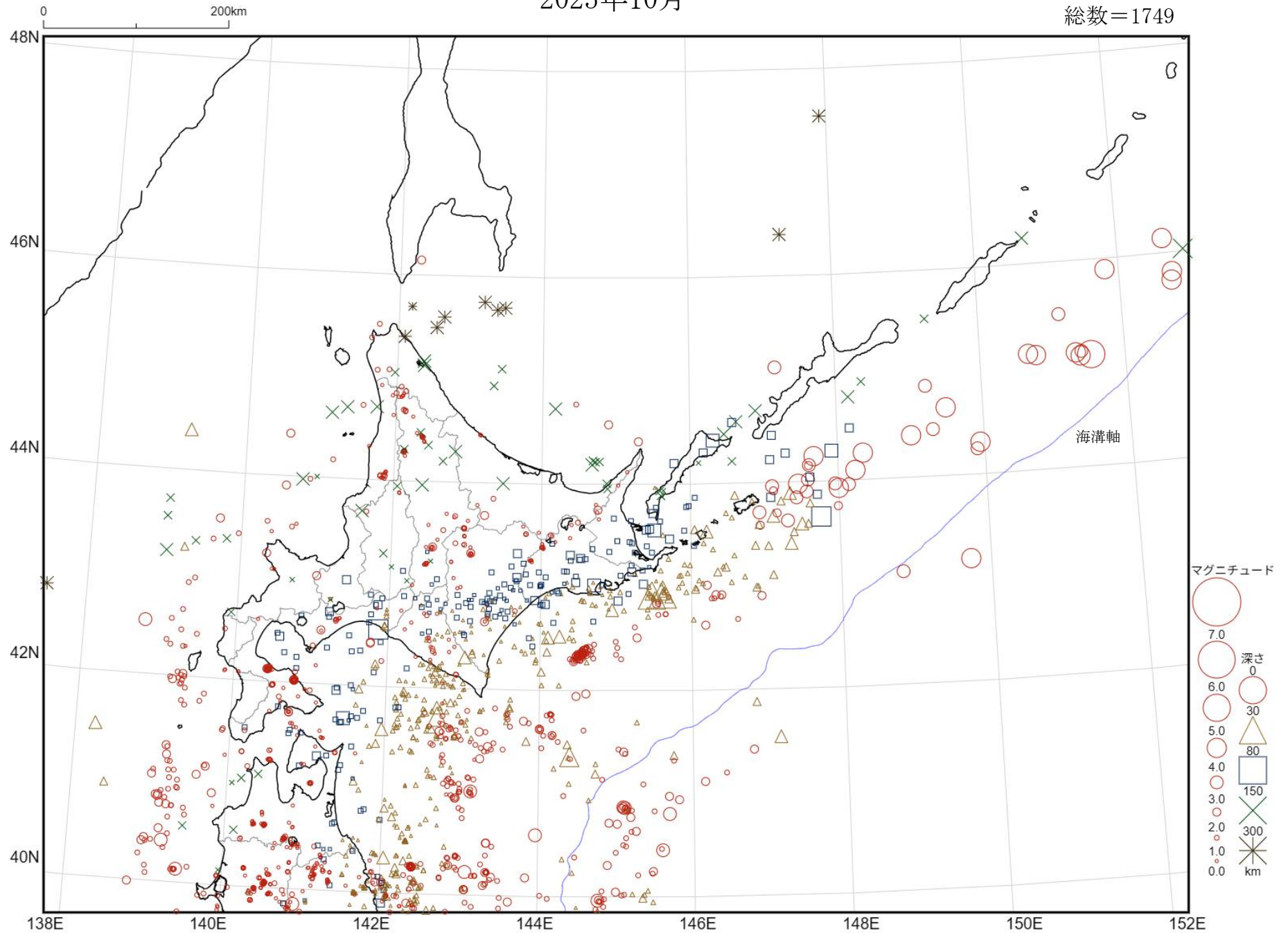


北海道の地震活動図

震央分布図

2025年10月

総数=1749



網走・北見・紋別地方で震度1以上を観測した地震の表 (2025年10月)

	年 月 日 地方	時 分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯 (N)	東経 (E)	深さ (k m)	規模 (M)
1	2025年10月22日 網走・北見・紋別地方	18時17分 震度1	釧路沖 斜里町本町(05) 斜里町ウトロ香川*(08) 清里町羽衣町*(10)	42° 55.4' N	145° 28.4' E	43 k m	M5.1
2	2025年10月25日 網走・北見・紋別地方	01時40分 震度2 震度1	根室半島南東沖 網走市北2条*(17) 斜里町本町(19) 斜里町ウトロ香川*(21) 清里町羽衣町*(23) 小清水町小清水*(18) 大空町東藻琴*(18) 網走市台町(12) 美幌町東3条(13) 大空町女満別西3条*(14) 北見市常呂町東浜(11) 北見市留辺蘂町温根湯温泉(07) 北見市常呂町常呂*(11) 北見市留辺蘂町栄町*(07) 置戸町拓殖*(05) 湧別町栄町*(13) 興部町興部*(08)	42° 55.9' N	145° 37.0' E	40 k m	M5.8

*のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。
() 内の数値は0.1単位の詳細な震度（計測震度）の小数点を省略して表しています。

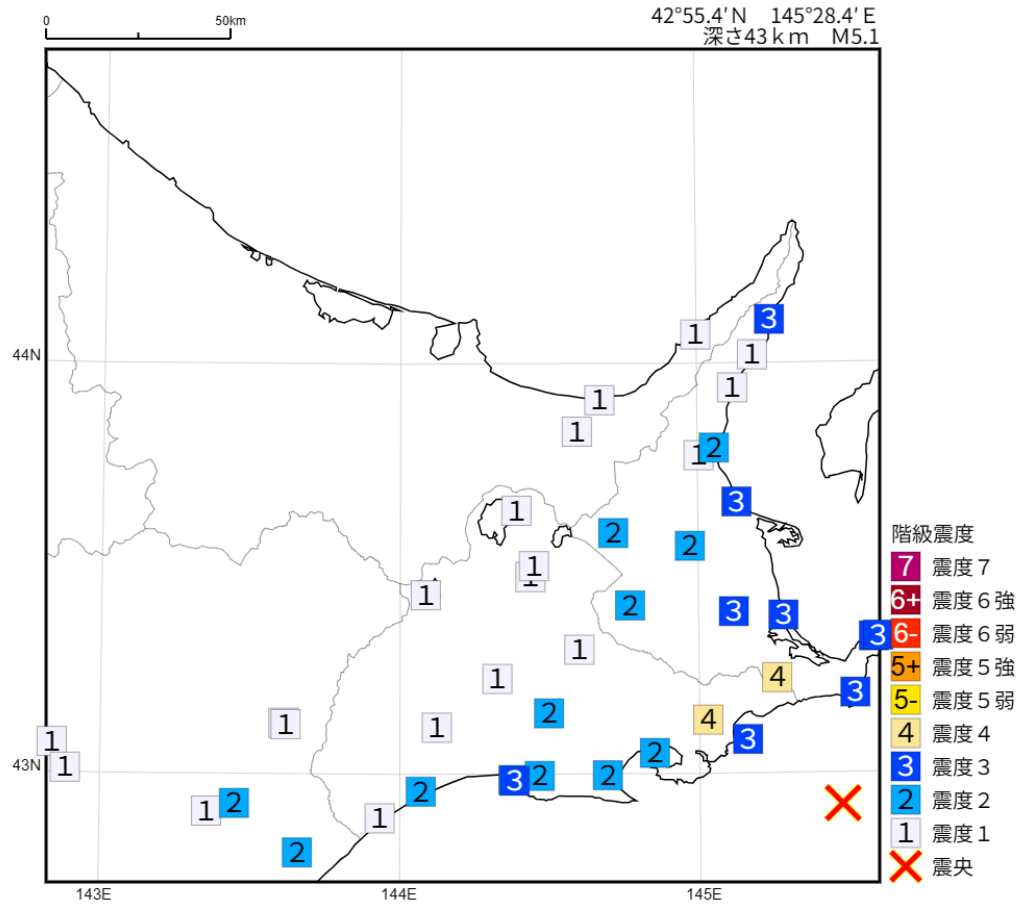
計測震度と震度階級の関係

計測震度	～0.4	0.5～1.4	1.5～2.4	2.5～3.4	3.5～4.4	4.5～4.9	5.0～5.4	5.5～5.9	6.0～6.4	6.5～
震度階級	0	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7

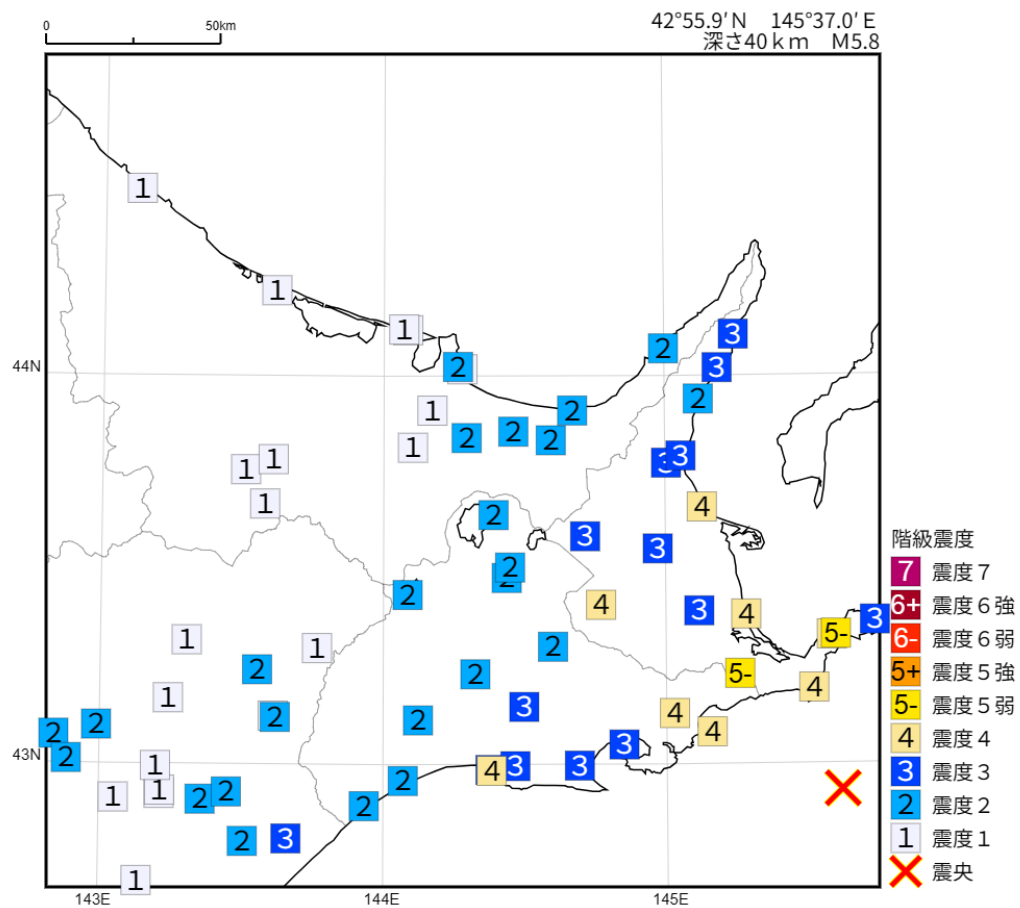
本資料の利用にあたって

- ・本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
- ・本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

2025年10月22日 18時17分 釧路沖の地震の震度分布図



2025年10月25日 01時40分 根室半島南東沖の地震の震度分布図



【防災メモ】

～陸域の浅い地震～

地球の表面は十数枚の巨大な板状の岩盤（プレート）で覆われており、それぞれ別々の方向に年間数cmの速度で移動しています。

日本列島周辺では、複数のプレートがぶつかり合うため、大きな力がかかり岩盤にひずみが蓄えられます（図1）。そのひずみが限界に達したとき岩盤が急速にずれ動きます。これが地震です。

地震は、海溝沿いのプレート境界や海のプレート内部で発生する「海溝型地震」のほか、陸域の浅い所（深さ約 20km より浅い所）でも発生します。これを「陸域の浅い地震」と呼びます（図2）。

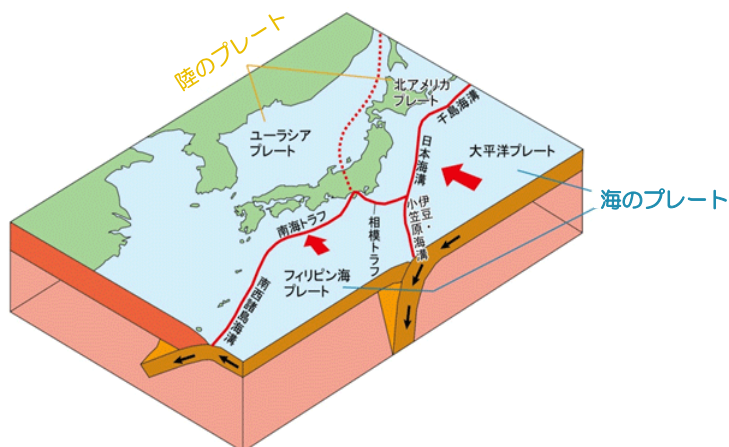


図1 日本列島周辺のプレート

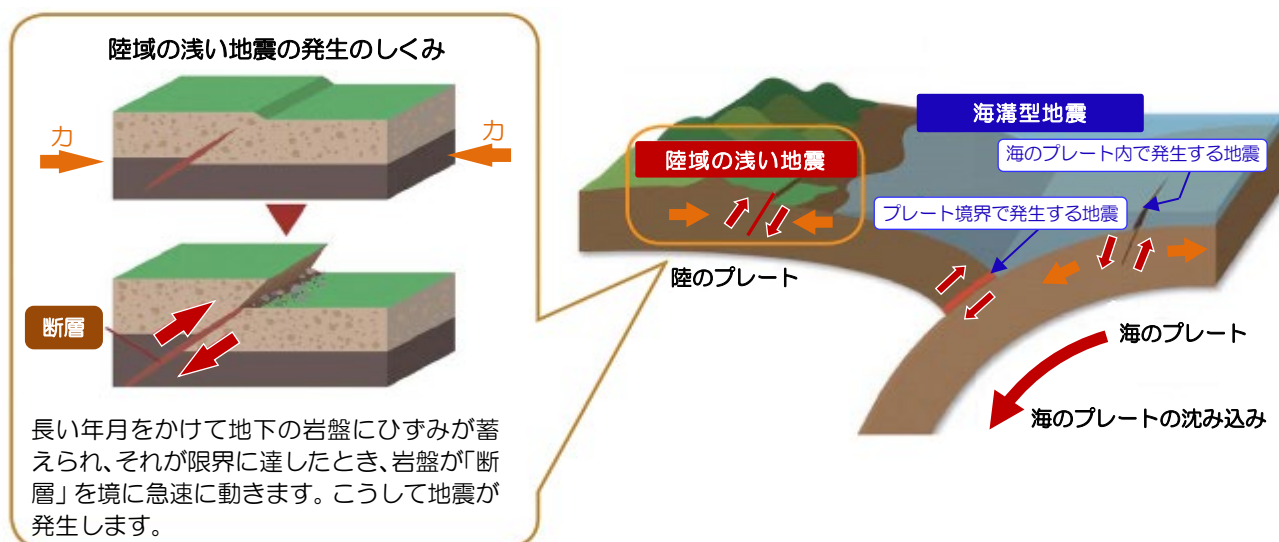


図2 日本列島周辺で発生する地震のタイプ

「陸域の浅い地震」は、地震の規模（マグニチュード）が比較的小さくても震源の直上では揺れが強くなるため、人の住む場所で発生すると局所的に大きな被害が生じる場合があります。

2018年（平成30年）9月6日に発生した「平成30年北海道胆振東部地震」はマグニチュード6.7と、「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」のマグニチュード9.0に比べて地震のエネルギーは2800分の1でしたが、最大震度は同じ震度7を観測しました。この強い揺れで、大規模な土砂崩れにより多くの人命が失われ、また、地盤の液状化による住家倒壊、北海道内のブラックアウト（全域停電）などの大きな被害が生じました。

地震はいつ起きるかわかりません。陸域の浅い地震など震源に近い地域では、緊急地震速報が間に合わず、発表前に強い揺れに見舞われることもあります。突然の揺れに備えて日頃から家具の固定や身の安全を図る行動の確認をしておきましょう。